

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2010・12 vol.411

●発行者—学長 小川 彰 ●題字—理事長 大堀 勉



学生オーケストラと盛岡青松支援学校生徒によるクリスマスコンサート

〈写真撮影：画像情報センター、12月4日（関連記事 P4）〉

おもな内容

- 特集 健康は夜つくられる。— 無呼吸専門外来から、総合的な「睡眠医療科」へ —
睡眠医療科 診療部長 櫻井 滋
- トピックス 平成22年度ボイラー安全祈願祭が行われる
- 表彰の栄誉 石渡 隆司 本法人評議員・名誉教授「瑞宝中綬章」を受章
角田 文男 名誉教授「平成22年度盛岡市市勢振興功労者表彰」を受賞
田澤 豊 名誉教授「アジア太平洋眼科学会功労賞」を受賞
- フリーページ 盛岡市高松公園で出会える野鳥紹介



健康は夜つくられる。

— 無呼吸専門外来から、総合的な「睡眠医療科」へ —

睡眠医療科 診療部長 櫻井 滋
(医学部睡眠医療学科 学科長 准教授)



睡眠医療学科と睡眠医療科の設置

平成22年7月1日、岩手医大附属病院の新たな診療科として「睡眠医療科」が設置されました。睡眠医療科は睡眠に関連する行動異常や健康障害について「包括的」な診断治療に取り組むことを基本方針とし、当院内外の各診療科および各医療機関との連携のもとで運営されます。

睡眠医療科には、8月1日現在、4名の「睡眠医療認定医※」が常勤することとなり、関連施設の1名を加えると県内の全ての認定医が岩手医大睡眠医療科のもとで診療にあたることとなります。さらに、認定医が診療協力または指導する、県内外の睡眠医療機関との連携も既に始まっています。このような診療体制の準備には10年余の歳月を要しましたが、これまでの診療研究の実績をふまえて、複数の医師が学会認定されたこと、岩手医科大学附属病院としての正式な対応が可能となったことから、睡眠医療を通じて各専門科連携のもとでの「総合的な診療」を目指す、新しい「睡眠医療科」の設置に至りました。さらに、睡眠医療科の設置と同時に、医学部所属の臨床系学科である「睡眠医療学科」が新設され、睡眠医療に関する知識を有する医師の育成や睡眠・行動医学に関する研究や啓発などを担当することとなりました。

※「睡眠医療認定医」とは：医師としての一般的な知識の他に「睡眠に関わる疾患」を診療する際に必要な、脳波検査や神経精神疾患についての基本的知識を有する医師に対し、日本睡眠学会 (<http://jssr.jp/>) が試験および審査の上で認定証を交付している。本県では平成22年4月現在、5名の登録があるが、うち4名が当科所属。日本睡眠学会は睡眠専門の検査技師や検査設備を備える施設に対して「睡眠医療認定施設」の認証も行っている。今後は当院も施設認定を目指すこととなる。

「睡眠医学・行動医学」への関心の高まり

従来、睡眠および睡眠に関わる病態は各診療科の範囲で生活指導や薬物療法が行われており、慢性の不眠や原因不明の睡眠障害に関しては精神科が担当することが通例でした。しかし、諸外国では睡眠を重要な生理機能として科学的に解析する学問が発達し、睡眠は単なる休息ではなく、生活習慣病をはじめとする病態や医療や産業安全の上流に位置する重要な生理機能であることが証明され、その成果は積極的に臨床医学に応用されています。特に米国では「睡眠医学」および「行動医学」が盛んに研究され、このような潮流は我が国にも波及し、関東以南の医科系大学をみると、「睡眠」を標榜する診療科や寄附講座等が設置される例は既に稀ではありません。

しかし、諸外国と比較すると、我が国における睡眠医学に対する関心は睡眠時無呼吸症候群を要因とする事故などに偏る傾向があり、その本質である睡眠の障害が日常の健康に与える影響は軽視される傾向にあります。

保健学や心理学の領域ではなく、医学部の正式学科として新設され、しかも内科学を基盤とするスタッフが運営する「睡眠医療学科」が設置されたことは極めて異例であり、研究のみでなく積極的な治療的介入が可能という点で、全国的にも極めてユニークかつ先進的な成立ちをもつ学科として誕生しました。

本学における睡眠医療スタッフについて

睡眠医療学科所属の4名の医師は、全員が内科・呼吸器科医としての診療経験を有していますが、科の新設計画を踏まえ、常勤医師全員が、睡眠学会の試験および審査を経て、正式な睡眠医療認定医の認定を取得するとともに

に、感染制御、救急医学、呼吸管理、精神医学領域などの分野でも研修を続けながら開設準備にあたって来ました。

睡眠医療学科は睡眠医学を通じて、いま最も求められている「広い視野をもつ総合医を育成する」という、壮大な目的をも意識し、いわば実験的な学科として歩み始めました。あらゆる医学領域の「睡眠中の事象」に関わりを持ち、科学的なアプローチをもって問題の解決にあたること、本県および北東北における睡眠医療の普及啓発をはかり、健康の根源となる「健やかな睡眠」を提供する一助となるべく努力する所存ですので、皆様のご支援とご鞭撻を賜りますよう、本紙面をお借りしてご報告かたがた、お願い申し上げます。

当面の間、新来は毎日随時、再来は火曜と木曜の午後となっています。睡眠関連で受診をご希望の節は総合受付にて「睡眠医療科を希望」とご用命下さい。

(診療科の紹介ホームページ URL : http://www.iwate-med.ac.jp/hospital/sinryouka/med/25suimin_01.html)



<前列左より>高橋 (外来医長)、櫻井 (診療部長)、笠井 (非常勤認定医師)
<後列左より>木澤 (秋田大研究員)、細川 (認定医師)、西島 (病棟医長)、金澤 (非常勤医師)

省エネ推進委員会だより

大学報409号に引き続き、地球温暖化防止に向けた国内の取組みについて紹介します。

冬の温暖化対策「ウォームビズ」

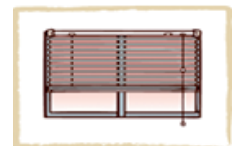
環境省では、平成17年から冬の地球温暖化対策として、暖房時の室温20℃設定でも心地良く過ごすことのできるウォームビズを推進しています。

これは、「寒い時には着る、過度に暖房機器には頼らない。」という原点に立ち返り、あくまで過剰な暖房を抑制する呼びかけです。なお、省エネルギーセンターの調査では、暖房時の設定温度を23℃から20℃にすることで冬場の約2割のエネルギーを削減することができるそうです。

「ウォームビズ」の実践例

1. あたたかい空気を逃がさない工夫をしよう

- ・天気の良い日はブラインドを開けて太陽光を採り入れ、天気の悪いときは閉めて空気が冷めるのを防ぐなど、ブラインドを上手に活用しよう。



2. 身に付ける物の工夫で体を温めよう

- ・保温効果が高い素材のインナーを着用しよう。
- ・ひざかけ、カーディガン、カイロなどのあったか小物を活用しよう。



3. 飲食にもひと工夫してからだの中から温めよう

- ・紅茶やココアなど、あたたかい飲み物で暖を取ろう。はちみつやしょうがなどを入れるとさらに効果的。
- ・ランチでは煮込み料理などのあたたかい料理をとろう。根菜や香辛料など体を温めてくれる食材を選ぶなど、食べ物であたたまる工夫を。



皆さんも、ちょっとした工夫で「ウォームビズ」を実践してみましょう。

参考資料：チャレンジ25キャンペーン「WARMBIZ」

ボイラー安全祈願祭が行われる



平成22年11月10日(水)午後5時から、西病棟地下1階ボイラー室において、ボイラー安全祈願祭が行われ、本学関係者約20名が出席しました。

神官による神事では、祝詞奏上・清払いの後、本学関係者による玉串奉奠が行われ(写真左)、ボイラーに対する感謝の念を深めるとともに、安全操業の誓いを新たにしました。

このボイラー安全祈願祭は、ボイラーデー(旧称:汽缶祭)にちなんで毎年行われているもので、ふいご(鞆)を用いる刀鍛冶などの間で、毎年11月8日になると鍛冶場を清掃し、火の神に感謝する習わしがあったことから、11月8日をボイラーデーと決めました。なお、本学のボイラーデースローガンは、「油断せず慣れた作業も再チェック」です。

秋季医療安全対策講習会が行われる

秋季医療安全対策講習会が、平成22年11月15日(月)から7日間にわたり歯学部4階講堂にて行われました(初日以外は録画映像による講習会)。

今回の講習会では、警視庁シニアアドバイザーの佐藤太郎先生(右写真)を講師に迎え、病院環境を取り巻く様々な危機事例が紹介され、7日間(計12回)で総勢約1,910名が参加しました。

「身を護る」と題した講演では、オウム真理教の事例から見る危機管理及び情報収集の重要性や、自らの体験に基づいた暴力団組織による難クレームの事例が取り上げられ、「患者さんからの暴力・暴言、難クレーム対応は、一人で背負い込まずに病院全体でバックアップする必要がある、素早い対応が求められる」とお話がありました。

参加者は、講師の実経験に基づく講演に、熱心に耳を傾けていました。



附属病院でクリスマスコンサートを開催



平成22年12月4日(土)午後2時から本学附属病院外来1階待合ロビーにおいて、クリスマスコンサートが開かれ、入院患者さんやご家族など約150名が一足早いクリスマス気分を味わいました。

このコンサートは本学学生オーケストラ部員と小児科病棟に入院中の盛岡青松支援学校生徒によるもので、今年で10回目の開催となります。

コンサートは、学生扮するサンタクロースの指揮に合わせて「クリスマスフェスティバル」「ふるさと」などアンコール曲を含め計7曲が演奏されました。そのうち、「夢

をあきらめないで」「Believe」は盛岡青松支援学校の生徒と合同で演奏され、病气と闘いながらも、この日を目標に練習を重ねてきた成果が披露されました。また、学生オーケストラ部のメンバーが、生徒と患者さんの席を回ってキャンディーなどのクリスマスプレゼントを手渡し(写真左)、心温まるコンサートとなりました。

表彰の榮譽

石渡 隆司 本法人評議員・名誉教授「瑞宝中綬章」を受章

本法人評議員で名誉教授の石渡隆司先生は、平成22年秋の叙勲において瑞宝中綬章を受章しました。先生は、昭和44年4月に本学教養部哲学科助教授に任用、昭和46年4月に同教授に就任しました。

また昭和58年4月に教養部長に就任し、教養部の運営・カリキュラム改訂に尽力され、平成12年4月に名誉教授の称号が授与されました。

研究面では、ヒポクラテス等偉大な医学者の古典文献を、初めて日本語へ翻訳するなど、海外古典の医学哲学文献研究に多大な貢献を果たすとともに、日本医学哲学・倫理学会会長として「医学」と「哲学」の懸け橋ともよべる研究者として、国内外から大きな評価を得ています。

現在では盛岡 YMCA 理事長としてご活躍される一方で、本法人の評議員として貢献しています。



角田 文男 名誉教授「平成22年度盛岡市市勢振興功労者表彰」を受賞

本学名誉教授角田文男先生は、平成22年度盛岡市市勢振興功労者表彰を受賞しました。

先生は、昭和47年4月から本学医学部衛生学公衆衛生学講座教授に就任し、平成11年4月に名誉教授の称号が授与され、本年春の叙勲において「瑞宝中綬章」を受章しています。

先生は、盛岡市環境基本計画の策定推進のため、平成11年1月に設けられた盛岡市環境審議会の初代会長を務め、その卓越した識見により市の環境施策の方向性を導き、初めての盛岡市環境基本計画の策定に貢献しました。

また、岩手県都市計画審議会会長として盛岡市のまちづくりの基本となる都市開発に大きく貢献する一方、盛岡市食品安全懇談会座長として消費者保護の見地に立った食の安全の推進にも貢献しました。



田澤 豊 名誉教授「アジア太平洋眼科学会功労賞」を受賞

本学名誉教授田澤豊先生は、眼科医療分野における優れた功績を称えられ、本年9月16日から9月20日に中国北京で開催されたアジア・太平洋眼科学会において、学会功労賞を受賞しました。

この賞は、永年にわたり眼科学の発展に貢献し、顕著な功績を挙げた研究者に授与されるもので、2010年では先生を含め二人の日本人だけが受賞しています。

先生は、昭和41年4月から本学医学部眼科学講座副手に任用後、同講師・助教授を経て昭和50年4月に同教授に就任し、平成17年4月に名誉教授の称号が授与されました。

また、国内・国外における学会理事を歴任され、眼科医療の発展に大きく貢献しました。



理事会報告

■10月定例（10月25日開催）

1. 薬学研究科の設置について

薬学部の完成に合わせて、平成25年4月に薬学研究科を設置するため、来年度以降、準備室・準備委員会等を発足し、文部科学省への設置認可申請手続きを進めることとした。

2. 岩手医科大学医療専門学校組織規程の制定

（施行年月日 平成23年4月1日）

3. PET・リニアック先端医療センター開設に伴う組織規程の一部改正

（施行年月日 平成22年11月1日）

4. 岩手医科大学医療専門学校長の選任

岩手医科大学医療専門学校長 三浦 廣行

（口腔保健育成学講座歯科矯正学分野 教授）

（任期 平成23年4月1日から平成26年3月31日まで）

5. 太陽光発電導入工事及びC敷地造成工事に係る工事業者の選定

・太陽光発電導入工事 株式会社興和電設

・C敷地造成工事 清水建設株式会社東北支店

薬学部
分子細胞薬理学講座

分子細胞薬理学講座は平成19年4月1日付けで開講しました。静岡県立大学から赴任した中山貢一主任教授及び田邊由幸准教授の2名でスタートしました。同年秋に斉藤麻希博士が助手（平成21年4月助教）として北里大学より赴任し、さらに



実験装置を前に講座配属の課題研究学生さんと一緒に撮影

平成20年4月に立川英一博士が講座内教授として医学部薬理学講座（平英一主任教授）から赴任しました。ほどなく、立川博士は母校の東京薬科大学主任教授として栄転されました。本平成22年4月1日付けで弘瀬雅教博士（信州大学医学部薬理学講座准教授）が講座内教授として赴任しました。本講座では心臓・血管などの循環系薬理学を研究・教育の中心にして、自律神経系や代謝系機能などを広い視野で学ぶことに興味をもっている学生諸君を育てたいと思っています。現在建築中の西研究棟の3階に医学部及び歯学部薬理学講座の先生方と同じフロアーに移転し文字通りお隣りとなります。研究・教育における医・歯・薬・大学病院の一層の連携を深められんことを願っています。
(教授 中山 貢一)

看護部
(西4階)

西4階は、消化器外科病棟であり、手術療法・放射線療法・化学療法・がん緩和ケアが行われています。疾患の範囲は、肝胆脾、上部消化管、下部消化管、乳腺・内分泌などです。私たち看護師は、患者さんが体験するさまざまな精神的・身体的・生理的变化を予測し、評価しながら援助を行っております。がん緩和ケアでは、患者さんから痛みや不安などを聞かせて頂き、他職種のチームスタッフとも協働して、少しでもご希望に近づけられるよう支援しております。一方、平成19年1月には岩手県初の生体肝移植が行われ、平成22年4月には、先進医療の腹腔鏡下肝部分切除術が行わ

れました。日々進歩していく医療の中で、より質の高い看護が実現できるよう、スタッフ一同日々研鑽しております。
(主任看護師 門坂 千代)



ご結婚おめでとうございます

岩手医科大学募金状況報告

● 総合移転整備事業募金

～ 皆様のご厚志により支えられています ～

平成21年6月から始まりました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

皆様のご厚志は、大学発展の大きな原動力となるものであり、本事業の早期達成のため有効に活用させていただいております。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は6回目の御芳名紹介です。(平成22年9月1日～平成22年10月31日)

※御芳名及び寄付金額は、掲載を希望されない方については掲載しておりません。

会社・法人等 (7件)

<66,000,000円>

株式会社こずかたサービス(盛岡市)

<2,000,000円>

医療法人謙和会 荻野病院(盛岡市)

<1,000,000円>

医療法人社団 千葉医院(宮城県大崎市)

<100,000円>

キング工業株式会社(茨城県つくば市)

<御芳名のみ掲載>

社団法人順天道医院 米山眼科(福島県会津若松市)

医療法人 堀医院(釜石市)

医療法人社団 鳥井医院(京都府舞鶴市)

(受付順、敬称略)

個人 (9件)

<10,000,000円>

大堀 勉 (役員)

<1,000,000円>

岩手医科大学医学部第32期一同

<100,000円>

石川 富士郎 (名誉教授)

<御芳名のみ掲載>

高村 英明 (父兄)

佐藤 俊一 (役員)

吉岡 邦浩 (教職員)

瀬川 郁雄 (医33)

新屋 久美子 (教職員)

藤村 朗 (教職員)

(受付順、敬称略)

これまでの募金累計額

区分	申込件数	募金金額(円)
圭陵会	325	181,965,000
在学生ご父母	135	57,020,000
役員・名誉教授	28	30,210,000
教職員	91	12,345,000
在学生	1	100,000
一般	71	156,810,000
合計	651	438,450,000

(平成22年10月31日現在)

第80回大学報編集委員会

日 時：平成22年12月16日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：山崎、影山、松政、小山、佐藤、佐々木(志)、佐々木(光)、米澤、赤松、佐々木(忠)、中島、岩動、武藤、野里

編集後記

暑い暑いと思っていましたが、あっという間に秋を通り過ぎて気がついたら年末になっていました。皆様にとって今年はどういう年だったのでしょうか。来年は、電子カルテシステム導入などの新しいことが待ち受けています。色々な変化に対応できるよう気持ちを引きしめて取組んでいく所存です。大学報編集も皆様の力をお借りして頑張りたいと思います。どうぞ良いお年をお迎えください。

(編集委員 赤松 順子)

岩手医科大学報 第411号

発行年月日 平成22年12月28日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線7022)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp

盛岡市高松公園 で出会える



野鳥紹介

岩手医科大学の内丸キャンパスから車で約10分、身近なロケーションにある高松公園は、春の桜、夏の緑、秋の紅葉、冬の白鳥など、四季を通じて盛岡市民の憩いの場になっています。

高松の池の歴史をひも解いてみますと、南部26代藩主信直公が盛岡城築城を開始した慶長2年（1597年）まで遊ぶことができます。当時の上田方面は湿地帯で、沢からの浸水が町づくりの障害であったため、治水目的に上田に三段の堤防が築かれました。この上堤、中堤、下堤のうち最も大きかった中堤が、現在の高松の池となって残っています（本誌第410号、2010年11月号参照）。また、平成元年（1989年）には「日本の桜の名所百選」にも選ばれていますが、この桜は明治39年（1906年）に日露戦争の勝利を記念して植樹されたのが始まりだそうです。

さて高松の池をはじめ周囲の高松公園や北山散策路など豊かな雑木林は様々な野鳥達の憩いの森でもあります。多くの種類の野鳥や生き物を育む雑木林には豊かで貴重な自然が残されているといっていでしょう。今回は秋から冬に高松公園で出会うことができる可愛い野鳥達をご紹介します。なお野鳥観察は肉眼でも出来ますが、8倍程度の双眼鏡とポケットサイズの野鳥図鑑があればさらに楽しむことができます。また冬の高松公園は十分な防寒着でお出かけ下さい。



「オオハクチョウ」

全長140cm。冬の主役はやはりオオハクチョウでしょう。昭和59年からの餌付けにより、多くの白鳥が飛来し始めました。現在では1月のピーク時で600羽を超える白鳥が飛来するようになり、5月頃まで越冬します。「雪景色の白鳥」だけでなく「紅葉に白鳥」、「桜に白鳥」を楽しむことができるのも高松公園ならではです。



「コゲラ」

全長15cm。日本に分布するキツツキのなかで最小、スズメと同じ大きさです。耳を澄ませて雑木林を散策していると「ギー」というドアがきしむような鳴声と「コツコツ」と木をクチバシで叩く音が聞こえてくるので見つけやすいです。秋冬はエナガやシジュウカラの群れと一緒にいることが多いです。小さな身体で一生懸命に木をつつく仕草が可愛いです。



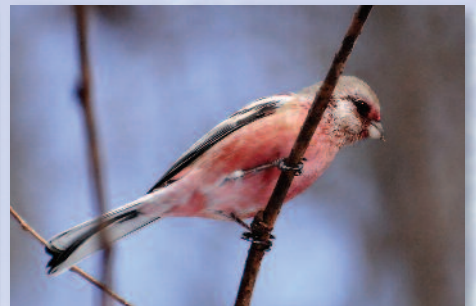
「エナガ」

全長13cm、その半分が長い尾羽なので身体の大きさはスズメよりずっと小さいです。秋冬はコゲラやシジュウカラなどのカラ類と混群をつくって過ごします。「チーチー、ピルルル」と小さな鳴声で鳴き交わしています。その小さな姿で木の枝に逆さにぶら下がったりする仕草は驚くほど可愛いので、ぜひ探してみてください。



「ヤマガラ」

全長14cm。オレンジ色の身体とグレーの羽根の色が印象的な小鳥です。冬は「ニーニーニー」という地鳴きが聞こえてきます。エゴノキの実が大好物で、木の実を両足で掴んで嘴で割る仕草は愛嬌があって可愛いのです。



「ベニマシコ」

全長15cm。北海道の原野で繁殖し、本州の平地で越冬する冬鳥です。北山散策路で見ることが出来ます。「フィッフッフッフッフ」と小さな声で鳴きます。冬枯れのモノトーンの景色の中でベニマシコを見かけると、その鮮やかな紅色がよく映えて眩しいくらいです。